

## 花王教員フェローシップ「ユカタン半島のサボテンとラン」体験報告書

■ 報告者：片股 朗（栃木県那須郡西那須野町立西那須野中学校教諭）

□ 調査日：2004年8月3日～10日

ユカタン半島の州都メリダから北へ車で約1時間のところに活動の拠点であるChicxulubの町はあった。海岸が近く、潟湖（ラグーン）が点在し、フラミンゴやペリカン、ハチドリなどの鳥類の他、多種にわたりさまざまな生物が生息している。また、約6500万年前の恐竜の絶滅に関係したとされる隕石の衝突の中心地がChicxulubであったと聞き、理科



教師である私にとってたいへん興味深い場所であった。チームが調査した植物は、海岸付近に自生しているヤシ、ラン、サボテンであったが、調査したほとんどはヤシとランであった。調査対象となったヤシは、葉の裏が銀色の *coccothrinax* と緑色の *thrinax* の2種類でChicxulub付近の海岸一帯に多く見られるものであった。ユカタン大学のJorge氏によると、Chicxulub以外では *coccothrinax* はほとんど見られないということである。Chicxulubから車で30分ほど移動したところに調査地点はあった。助手のLuis氏とともに10m四方の区分けをしてから、調査に入る。ヤシについては、高さ、葉の直径、実の数、近くにある同種の株との距離を測定する。また30cm以下の若い株については、上記の測定を終えた後にナンバリングを行う。立ち枯れしたヤシについては、高さやヤシの幹に自生しているランの数を調べた。サボテンを見る機会は少なく、見つけたときは人工的に繁殖させるために実を採集した。調査地点は、数カ所あったが、海岸に近いところでは立ち枯れしているヤシが多いのには驚いた。Luis氏によると、海岸に近いため、海水や海水を含んだ風などの気象条件のほか、人間の手による開発の影響があるのではとのこと。ある調査地点では、最近のものと思われる野火の跡があり、焦げているヤシを確認した。このプロジェクトは、海岸地帯の植物の再生を図る目的で立ち上げられたと聞いているが、Jorge氏によれば、Chicxulubで調査が始まってまだ数年しか経っていないということである。我々の今回の調査結果が生かされ、今後のチームⅢ～Ⅴによって少しずつ立ち枯れ

Photo: © Akira Katamata

の原因が明らかになってほしいと願っている。

私がこのプロジェクトに参加した理由には、1つはユカタンの雄大な自然に興味があったこと、もう一つは国際的なプロジェクトに参加してみたいからであった。アースウォッチにはたくさんプロジェクトが登録されており、さまざまな活動が行われていることを知り、ぜひ自分もその中で活動し、何か役に立つことができ



ればと思ひ飛び込んでいった。ユカタンの日差しは強く、みな汗だくで活動した毎日ではあったが、ユカタン大学の両氏をはじめ、アメリカ、日本から参加した人たちが言葉の壁を越えて協力して、また楽しい雰囲気の中で行われたことは私にとって素晴らしい経験となった。学校に戻り、プロジェクトの報告を行うと、調査活動について興味をもつ生徒もいれば、国際的な交流についての関心を示す生徒もいた。習慣や文化の違いなどは、経験しなければわからない。フェローシップへの参加は生徒たちの興味・関心を高めるものになったのではないかと思う。また、今回のプロジェクトでは、近縁関係にあるヤシ2種類について調査したが、国内においてはタンポポの分布調査などで、同様の取り組みができるだろう。また、立ち枯れしたヤシとランの共生関係には私自身興味を持ったので、国内にもこのような事例がないかどうかを調べてみたい。いずれも継続的な調査が必要であるが、環境についての取り組みの一つとして、総合的な学習に取り込んだり、理科の選択授業や自由研究の1テーマとして生徒に示したいと思う。

教員フェローシップへの参加が決定してから、アースウォッチスタッフにはいろいろと情報をいただき、無事終了することができたことに深く感謝いたします。2週間近く職場を離れたことを考えると、多くの人ののおかげで参加できたことを忘れてはなりません。